

令和3年度 建設委員会行政視察報告書

建設委員会
委員長 竹田 勝

1 視察期間 令和3年11月19日（金）

2 視察先及び視察事項

（1）呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地

「工事の進捗について」

（2）岩瀬地区

「グリーンスローモビリティの運行状況について」

（3）浜黒崎浄化センター

「消化ガス発電施設の稼働状況について」

（4）水橋花の井町

「浸水被害箇所について」

3 視察参加委員

委員長	竹田	勝
副委員長	金谷	幸則
委員	柏	佳枝
〃	高原	譲
〃	豊岡	達郎
〃	岡部	享
〃	谷口	寿一
〃	横野	昭

4 随員職員

議事調査課長代理	中山	崇
議事調査課主査	熊谷	法子

5 視察概要

(1) 視察事項

- ・工事の進捗について
- ・グリーンスローモビリティの運行状況について
- ・消化ガス発電施設の稼働状況について
- ・浸水被害箇所について

(2) 視察の目的

呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地

呉羽丘陵フットパスは、全長約6.8キロメートルにもわたる、里山の豊かな自然や富山の歴史・文化を感じられる自然歩道である。

呉羽丘陵は、県道44号線により南北で分断されているが、この上部につり橋を架け、フットパスを一体的につなげる計画が立てられ、現在土地の買戻しや工事が進められている。

今回の視察でその進捗を確認し、当該事業への理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

岩瀬地区

グリーンスローモビリティとは、時速20キロメートル未満で公道を走行することができる電動車であり、環境や人に優しい次世代の乗り物として注目を集めている。本市においても富山駅から富岩運河環水公園の区間で試験導入されているが、市内郊外部における実験運行として、11月1日から29日にかけて岩瀬地区も走行している。

グリーンスローモビリティの実際の利用状況を確認し、今後の委員会活動の参考にするもの。

浜黒崎浄化センター

浜黒崎バイオガスパワー再生可能エネルギー発電所は、下水処理の過程で余剰となっていた消化ガスを利用して発電する再生可能エネルギーの発電所であり、令和元年8月より稼働している。

稼働より2年が経過したこの施設を実際に現地で確認し、今後の委員会活動の参考にするもの。

水橋花の井町

水橋花の井町地区では、平成12年から平成13年にかけて調整池を整備し、それ以降、大きな浸水被害は発生していなかったが、平成26年頃より雨が降ると水があふれるという報告が度々あった。

建設部の技術職員が何度か現地に赴き、水があふれる原因を調査したが判明せず、

令和３年９月定例会では原因調査を外部に委託する予算が可決された。

建設委員会として現地を確認し、今後の委員会活動の参考とするもの。

（３）取組の概要

呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地

呉羽丘陵フットパス連絡橋建設工事は、令和５年３月までを工期としており、現在、県道４４号線の通行に支障を来さないよう注意を払いつつ基礎工事などが行われている。

呉羽山側の東側の森林は風致保安林となっているため伐採等ができず、立山を望むことは難しいが、連絡橋はビュースポットとして立山連邦が一望できる予定である。

呉羽山側の空間には緩やかな勾配のある一体的な広場を整備する計画となっており、広場内に整備する民間施設については現在サウンディング調査を実施している。

岩瀬地区

岩瀬地区におけるグリーンスローモビリティは、令和３年１１月１日から１１月２９日を運行期間として、平日は生活利用、休日は観光利用について検証するために試験走行している。

平日は岩瀬カナル会館からショッピングタウン北の森までの片道約２．５キロメートルを１時間に１往復、休日は岩瀬カナル会館から岩瀬中央公園までの片道約１．３キロメートルを３０分に１往復しており、市民・観光客双方の輸送を担う持続可能な地域公共交通網の形成の可能性を探っている。

浜黒崎浄化センター

浜黒崎バイオガスパワー再生可能エネルギー発電所は、設計、施工、運営、維持管理の全てを民間業者が行う民設民営方式のＰＰＰ事業による施設である。

一定期間の再生可能エネルギーの買取り価格を一定価格に固定するＦＩＴ制度によって費用対効果が見込まれるようになり、市場の広がりを受けて開発が進んだため、低騒音・低振動の発電機を選定して設置することができた。

年間発電量は６４０万キロワットアワーで、およそ１８００世帯分に相当する。また、これにより削減される二酸化炭素は年間約４，０００トンである。

水橋花の井町

水橋花の井町地区はかつて富山県住宅供給公社が整備した団地であるが、造成当時は調整池等が整備されておらず、平成１０年にはこの地区で浸水被害が発生した。

平成１２年から平成１３年にかけて雨水をポンプにより白岩川へ排水する調整池を、平成１４年に同じく白岩川へ排水するバイパス側溝を整備しており、どちらも作用していることを確認している。

今回、時間ごとの降水量による排水量の変化や、雨水が地区外から流入している可能性も含めて調査を委託する予定である。

（４）所感

〔竹田委員長〕

呉羽丘陵フットパス—中規模ホテルを設置し県外からの宿泊客に眺望魅力の先鞭をつけてもらうことも一考。

岩瀬地区（グリーンスローモビリティ）—需要が見込めそう。中心市街地（グランドプラザ～大手町～千石町～花水木通り～中教院前～中央通り）周遊でもニーズがあり、人気が出ると思う。

浜黒崎浄化センター—順調な稼働。

水橋花の井町—浸水原因として、地盤が低い、排水路の傾き・流量オーバーが問題、白岩川の川床が高い等々、分譲当初からリスクがあった構造的問題か。揚水ポンプで白岩川に放出できればいいのだが……。

市内視察でもあり現在進行形のテーマが多く、参考になった。

〔金谷副委員長〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地

現在、橋脚の建設中であった。説明の中で仮設工事の大変さがよく理解できた。法的な規制に加えて、下に県道が走ることによる安全施設や仮設物の建設など注意をして進めてもらいたい。また現在呉羽丘陵にある、多くの歴史的資産や観光資源との連携を考え、立山を望む新しい富山のビュースポットになり多くの方が訪れてくれることを期待する。

岩瀬地区グリーンスローモビリティの社会実験

岩瀬地区でのブルバースの実験を視察した。環境に優しく多くのお客様が利用しており盛況だった。今後さらに検証し実用につなげてほしい。利用者からも好評だった。

〔柏委員〕

呉羽丘陵フットパス視察について、富山駅から近距離にある呉羽丘陵の自然と立地を生かし、人が集まるにぎわいが生まれるよう、景観に様々な工夫を取り入れるなど、今後の進捗を期待する。

また、グリーンスローモビリティ、通称ＢＢは、温かみのある穏やかな雰囲気的空間を生み出し、岩瀬の町並み景観をさらに引き立てていると感じられた。観光の一躍となる事業として年間を通しての運営を望む。

浜黒崎浄化センターでは、ＳＤＧｓが目指す循環型社会に貢献する再生可能エネルギーが活用され、脱炭素化社会のためにさらなる稼働の拡充を期待する。

水橋花の井町視察では、浸水被害の現場に立ち、現時点では原因の特定ができておらず、今後の対策・方向性などの説明を受けた。防災・減災のより一層の強化が必要だと感じた。

〔高原委員〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地の視察では、通行量の多い県道富山高岡線の真上に124メートルのつり橋が架かるという県内初の工事のため、事故を起こさないための二重三重の安全対策の必要性を痛感した。

岩瀬地区でのグリーンスローモビリティの試験運行は、この町並みに溶け込み、観光客の人たちに好評であり、この地区での運用が期待される。

浜黒崎浄化センターにおいて発生する消化ガスをエネルギー源とする発電事業はSDGs未来都市とやまの再生可能エネルギーの有効活用として大変期待の大きい施設である。

水橋花の井町地区の視察では、今後二度と浸水被害を出さないための対策の必要性を感じた。

建設委員会は現地・現場視察が重要である。

〔豊岡委員〕

フットパスはその全容を見て壮大な橋であることに感動しました。新たな観光資源として本市に貢献してくれるものと思います。

岩瀬を走るグリーンスローモビリティは江戸時代をほうふつさせる町並みにおしゃれな現代風のバスが走行しており魅力的です。電動車なので、環境にも優しく、地域住民の買物等の交通問題解決に寄与できればと思います。

浜黒崎浄化センターのバイオガスの活用は再生可能エネルギーの活用であり有意義です。

水橋花の井町の道路冠水が解決すれば住民の不安も払拭できてよいと思いました。

〔岡部委員〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋の基礎部分の工事現場と今後の計画の説明を受けたが、県道の上空を横切るため、落雪対策など建設費がかさむことが予想され、環境の整備も含め、税金の無駄遣いと言われないよう引き続きチェックが必要。

岩瀬地区グリーンスローモビリティは、1か月間の社会実験として運行。平日は、スーパー等ともつなぎ、地域住民の足として1時間ごとに、休日は観光客の利用を中心に30分ごとの運行。視察は金曜日の午後であったが定員一杯で定期運行も期待できる。

ほかに、浜黒崎浄化センターの汚水を利用した発電と水橋花の井町の冠水現場も視察。

〔谷口委員〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋の現地は風致地区であるため、樹木の伐採に制限があるとのことだが、せっかくの眺望を楽しむためにも、県と協議を進めよりよいものにしてほしい。

グリーンスローモビリティは、平日にもかかわらず多くの利用があり、今回の実証実験で正式導入の可能性をしっかりと検証し、どこが導入に適している地域なのかも検討していかなければならないと思うが、車両の購入費用など問題も多いと思われる。

水橋花の井町の浸水問題は、しっかり検証することは重要だが、浸水の頻度や、降水量との関連も検討しながら進めていく必要があると感じた。

〔横野委員〕

連絡橋の事業内容を確認し、この事業費の投資効果と今後の活用に期待します。

グリーンスローモビリティは岩瀬地区の観光客がよく利用している状況が分かり、今後の方向性とさらなる運行増に向けた取組が必要と感じました。

浜黒崎浄化センターの消化ガスの発電効果による収入増とそれに伴う上下水道局の今後に期待したいです。

水橋花の井町の浸水被害状況について、全体的に低地であり、調整池や排水ポンプの増設の必要性を感じました。

令和3年11月19日（金） 呉羽丘陵フットパス連絡橋建設地



岩瀬地区



浜黒崎浄化センター



水橋花の井町

